

[ジャーナリズム・政策研究所特別インタビュー]

政治分野における男女共同参画の 実現に必要なものは何か

～小池百合子・東京都知事に聞く～

ジャーナリズム・政策研究所 石元悠生

【インタビュー日時】2023年11月8日

【場所】東京都庁知事応接室

【小池百合子氏プロフィール】

1952年7月15日兵庫県生まれ。1976年10月カイロ大学文学部社会学科卒業。1992年7月参議院議員。1993年7月衆議院議員。2003年9月環境大臣。2004年9月内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策）兼任。2006年9月内閣総理大臣補佐官（国家安全保障問題担当）。2007年7月防衛大臣。2010年9月自民党総務会長。2011年10月予算委員会理事。2016年7月東京都知事 当選。2020年7月東京都知事 当選（2期目）



はじめに

2023年4月に実施された統一地方選挙における道府県議選挙における女性の当選者は過去最高¹の316人となり、9月には岸田文雄総理が行った内閣改造²では過去最多に並ぶ5人の女性閣僚が誕生して話題になった。とはいえ、その後に任命された54人の副大臣と政務官の中に女性議員は皆無だった。世界経済フォーラムが発表した2023年の日本の「ジェンダーギャップ指数」は過去最低の125位で主要7カ国でも最低水準だった³。特に、政治分野は146カ国中138位と低順位となっており、指導的地位に占める女性割合の低さが響いたとされる⁴。

内閣府男女共同参画局によると、2023年4月の統一地方選挙における候補者や当選者に占める女性割合の推移については、候補者及び当選者に占める割合は上昇傾向にあるが、低い水準となっていると分析する。候補者に占める女性の割合は特別区議会が32.0%と最も高く、町村議会が14.7%と最も低くなっており全体で19.2%。一方、当選者に占める女性の割合は特別区議会が36.8%と最も高く、都道府県議会が14.0%と最も低いと分析している⁵。

駒澤大学法学部教授の大山礼子氏は、「4月の統一地方選で女性議員が増えた地域もあったが、まだ十分とは言えない。2018年施行の候補者男女

-
- 1 総務省の第20回統一地方選挙発表資料による
 - 2 2023年9月13日に行われた岸田文雄総理による内閣改造。朝日新聞や産経新聞、日経新聞など新聞各紙で報道。外務・上川陽子、復興・土屋品子、こども政策・加藤鮎子、経済安保・高市早苗、地方創生・自見英子の女性閣僚が任命された。女性閣僚5人の任命は、小泉内閣と第二次安倍内閣と並ぶ過去最多。
 - 3 世界経済フォーラム「グローバル・ジェンダー・ギャップ報告書(2023)」
 - 4 「日経新聞」2023年12月9日朝刊
 - 5 内閣府男女共同参画局の統一地方選挙における候補者、当選者に占める女性の割合の推移から

均等法の効果が徐々に出て増えたのだと思うが、いまだ 200 以上の議会で女性がゼロだ。2 割前後で伸び悩む議会もある」と述べる⁶。そのうえで、女性が影響力を持つには議会の 3～5 割程度を占める必要があり、達成には選挙制度の抜本的な改革が不可欠とする。

また、大山氏は、選挙制度を考えるうえで重要な視点は「多様性の確保」「議会の活性化の促進」⁷であり、都道府県議会や政令指定都市議会で女性を増加させるには、無投票が多く現職に有利になる 1 人区や 2 人区を減らすのが効果的と言う⁸。逆に定数が多いと党派も多様になり女性や若い世代も立候補しやすくなるといい、市町村議選では複数の候補者に投票できる「制限連記制」が選択肢の一つと指摘する⁹。著書¹⁰では、女性や子育て世代の姿がほとんど見られない議会で保育の問題などを論じていて、「果たして効果的な政策を立案できるのか疑問」と訴える。自身が分析した地方議会における議員の発言記録から、女性議員比率が高いほど「保育」や「児童」といった発言の回数が増えることが確認され、「議員構成がその議会の活動内容に影響を及ぼすことがわかっている」と述べている¹¹。大山氏は日本の選挙制度を歴史的な視座から分析したうえで、諸外国の研究蓄積を踏まえると、小選挙区よりも比例代表制の選挙のほうが女性議員が増加する傾向がみられるとして、選挙制度の改革による多様性の実現を強調している¹²。

6 「日経新聞」2023 年 11 月 23 日朝刊

7 「女性議員を増やすために有効な方法とは？」女性展望,2017.7-8,pp.18-20.

8 辻村みよ子・三浦まり・糖塚康江編（2020）「女性の参画が政治を変える－候補者均等法の活かし方－」信山社 pp.63 - 77.

9 「日経新聞」2023 年 11 月 19 日朝刊

10 大山礼子（2018）「政治を再建する、いくつかの方法 政治制度から考える」日本経済新聞出版社

11 大山, 前掲書（2018）,p.113.

12 大山, 前掲書（2018）,pp.159 - 161.

政治分野のジェンダー平等の実現に向けたポジティブアクションには、候補者や議席の一定数を女性に割り当てるクオータ制や男女同数とするパリテ方式、またペア投票制によるツイン方式などがあり¹³、選挙制度との組み合わせや罰則の強さによって国ごとに多種多様な制度が存在している。上智大法学部教授の三浦まり氏は、クオータ制度について実効性のあるものとそうでないものがあるとし、「クオータを導入すれば男女比率が改善するというわけではないことに注意が必要」と語る。そのうえで、日本がクオータ制を導入する場合は実効性のある制度設計を必要と、どの選挙のどの部分にどの程度の強さで実施するかにまで踏み込んだ議論をすべきと説いている¹⁴。

こうした状況を踏まえ、政治分野における男女共同参画の実現には何が必要となるのか。女性初の東京都知事となった小池百合子氏と、統一地方選で豊島区初の女性区長に当選した高際みゆき氏にインタビューを行い、女性首長や議員が増えることで地方政治の現場の多様性は進んでいるのか聞いた。

(聞き手 ジャーナリズム・政策研究所 石元悠生)

新しい波

——2023年4月の統一地方選挙では、全国で女性議員が増え、東京23区では豊島、北、江東の3区でいずれも区初の女性区長が誕生しました。地方自治の現場から見ると、多様性のある地方議会につながる効果は出てきたと考えますか

13 辻村・三浦・糖塚,前掲書(2020),pp.24-26。

14 三浦まり(2023)「さらば男性政治」岩波新書 pp.196-200。

「4月の統一地方選を経て現在の東京都内の女性首長は10人¹⁵。23区は5人、市町村は4人。都内は62区市町村ありますので、そのうち10人ということであれば、約20%弱ということですが、これって今までにない傾向で、これは新しい波じゃないかなと思います。日本全体はどうかというと、女性の首長は55人。私「GOGO」って言っているんですけど。全国の自治体は1718あるのですが、女性首長の割合は3%にとどまっています。結局、意思決定の場に女性がいるかいないかっていうのは、それぞれの自治体への影響は必ず起こります。例えば、子育て、教育、地域活動、防災、といったような、自治体は非常に住民に近いですから、そういう意味で女性首長が増えたということは、より住民、私が言うところの都民ファーストに近づきつつある一歩だというふうに思います」

——内閣府の「女性活躍・男女共同参画における現状と課題」によると、女性議員の比率について、衆議院議員に占める女性の割合は10・0%、参議院に占める女性の割合は26.0%と低水準が続いています

「前に国会の議会運営メンバーで座っている写真を見たら全員男性だったのでですね。それから、フェイスブックか何かで、官邸から補佐官か誰かを送り出すシーンを見る機会がありまして、そこでお花を渡すのは女性で、後は全部男性だったのです。で、そういう写真を見て、あの何とも思わないのか、もしくは「え〜」というふうに思うのかという問題だと思うのです。そもそもの意識として、歪ではないかというふうに感じるか否かだし、

15 2023年10月7日時点で、品川区・森沢恭子、江東区・木村弥生（11月15日辞職）杉並区・岸本聡子、豊島区・高際みゆき、北区・やまだ加奈子、足立区・近藤やよい、武蔵野市・松下玲子（11月10日辞任）、小平市・小林洋子、東大和・和地仁美、日の出町・田村みさこの各首長が在職。

その意思決定の場に女性が長としている場合はですね、多様な住民ニーズを汲み取ることに近づくというふうに思います」

——小池氏は著書¹⁶で、「女性戦略こそが成長戦略の切り札」と話しています。そのために取り組まれている方策があれば教えてください

「私自身、都知事として初めての女性でありますけれど、知事としては山形の吉村美栄子知事と私の2人だけですね。私と吉村さんが連携しまして、「女性首長によるびじょんネットワーク¹⁷」というものを作っております。勝手ながら略して「美女ネット」と言うのですが。毎年開催してまして女性首長、女性経営者¹⁸、駐日女性大使¹⁹の参加を得まして日本商工会議所と組んでやっています。いつも東商ホールをお借りして、同時に物産展も開いているのですね、オンラインでも申し込めて、それぞれの首長の特産品を用意してもらってそこで申し込めるようにしてもらって。というのも、それぞれの女性首長で、経済でそれがより盛り上がった、みんなでね、連携しながら地域を良くしていくことにつながるのが選ばれた首長としての成果につながりますから、お互いにノウハウなどもシェアしながらやっっていこうと、進めてきております」

16 小池百合子編(2013)「女性が生きる成長戦略のヒント vol-1 20/30 プロジェクト」プレジデント社

17 2019年に設立。全国の女性首長や経済界の最前線で活躍する女性経営者が集まって女性活躍推進施策などを共有してきたほか、近年では駐日女性大使も交え、国際的な女性の視点を取り入れた組織運営や地域活性化策などについて幅広く意見・情報交換を行っている。<https://bijonet.tokyo/>

18 内閣府男女共同参画局の調査(2023年4月11日)では日本の上場企業における女性役員(取締役、監査役及び執行役)数は2023年時点で4302人。前年から648人増加したが、未だ役員に占める女性の割合は10・6%にとどまっている。

19 東京都の調査(2022年10月)で女性の駐日大使は19人となっている。

女性議員を増やす「覚悟」があるかどうか

——IPU²⁰（列国議会同盟）の国際ランキングでは衆議院の女性議員比率は191カ国中165位と遅れています。その一方で女性議員の割合が40%を超える国は、2020年1月時点で32カ国に上っています。また、女性閣僚の数は2021年1月時点で半数または過半数の国は13カ国、40%以上は30カ国、30%以上も63カ国あります²¹。日本では何が他国と異なるとお考えでしょうか

「例えば、国会での女性議員、そしてそこから女性閣僚が何人いるか、いくつかの計算式みたいなものがあって、それでいくと女性閣僚も圧倒的に少ないということもあって、ずるずると下げてきて、女性議員の数も少ないということですね。で、他国はかなり戦略を持って進めているのですね。日本は女性活躍と言葉は踊るけれども、現実にはその覚悟がまだ私は足りないと思っています。それは戦略として例えば世の中を変えていこうというリーダーとしての女性議員を増やしていくということですね。これも政党ベースになると思いますが、そういったことも必要になるのではと思うのです。一方で、区議会でもこの4月の統一地方選挙でも、東京では杉並区議会は24人²²、武蔵野市議会では13人²³、女性議員が定数の半分を超えたのですね。両方で共通するのが、女性首長（選挙当時）だという

20 1889年に設立された世界の議会による国際機関で本部はジュネーブに置かれている。各国・地域の議員の対話の中心として、世界の平和と協力及び議会制民主主義の確立のために活動している。日本は1908年に加盟し、第2次世界大戦後の1952年に再加盟した。2023年現在、日本を含めて180の国・地域が加盟。 <https://www.ipu.org/impact/gender-equality>

21 2023年1月時点の国連女性機関（UN Women）による調査

22 杉並区議会 <https://www.city.suginami.tokyo.jp/kugikai/giin/1000235.html>

23 武蔵野市議会 <https://www.city.musashino.lg.jp/shigikai/index.html>

ことです。それから、私自身が都議選で都民ファーストの候補者選びからやりましたので、女性議員が都議会²⁴で一気に増えて、昔は47都道府県の中でベタだったのが、今1位²⁵ですね。やはりそこは覚悟というものでしょうか、意識をもってやってきているということです。女性議員は都議会では37人、比率で言うと31%。全国の都道府県での平均は12%ですので、31%というのは全国1位。2位が京都府議会で22%（当時）。大きく引き離しています」

——それでは、行政の現場、すなわち都庁の女性幹部比率や女性活躍の現状はどうなのでしょう。

「都庁では、長年にわたって人事では女性も男性も関係なく進めてきています。管理職に占める女性職員の比率は昨年(2022年4月時点)で21%²⁶です。なのですが、病院関係は独法化²⁷したので、少しは数字が減っているのです。婦長さんとかですね。ということで、管理職の前の段階、いわゆる課長代理級で言うと34%。民間企業は24%なので、女性活躍は東京都は凄く進んでいるといえます。数字で見ると、女性管理職比率は民間が10%なのに、東京都は18.4%です。育業取得率は104.1%というので、民間企業と比べてどうなのか、日経BP社が企業512社を対象として調査の同じ指標を用

24 東京都議会 <https://www.gikai.metro.tokyo.lg.jp/>

25 内閣府男女共同参画局の調査(2023年4月)「都道府県別全国女性参画マップ」
https://www.gender.go.jp/policy/seijibunya/mieruka_map_2.html

26 内閣府男女共同参画の調査(2022年4月)「都道府県本庁課長相当職 女性割合ランキング」https://www.gender.go.jp/policy/suishin_law/ranking_ken.html#second

27 2022年7月に東京都は8つの都立病院と公益財団法人が運営していた6つの公社病院・がん検診センターの計15医療機関を都立病院気候に移管した。都が一定の関与を保ちつつ経営の自由度を高め、医療技術の進歩や少子高齢化といった医療環境の変化に対応しやすくするのが狙い。

いて女性活躍度の調査を行ったら、東京都は実は2位に相当する結果になっています。スコアが78.0。管理職登用度は何と1位。ワークライフバランス度は513社中42位です。女性活躍推進度は63位。人材多様制度は1位です。民間企業と比べてみても女性が働きやすい職場としては2位になっているという話です。私は女性管理職もいろんな観点から判断しているのですが、別に女性だからといって下駄を履いているわけではなく、みなさん、「ハイヒールは履くけど下駄は履いていないよ」と言ってます」

女性が活躍しないのは「もったいない」に尽きる

——先日、産経新聞で小池氏が執筆されているコラム「女子の兵法」²⁸で、「女性活躍推進」という言葉がなくなるとは日本では真の「女性活躍」の舞台は整わないと仰ってました

「はい。これまでの女性参画や平等という観点から女性の労働など、そういう切り口だったのですが、私はもうはっきりいって社会がどうやって元気になるか。そこは女性の力をもっと、人口の半分なのだから、むしろ、国力を伸ばすためには女性力をもっと活用すべきだという話です。これだけ高学歴の女性比率も高く社会の中で活用されていないのはまさにもったいないと思いますね。先ほどの「ジェンダーギャップ指数」は過去最低の125位で主要7カ国では最低水準だった。前回から9つ順位を落としている。G7メンバーの中でも最下位、特に政治分野の順位が138位と。他の国はどうしているのかということは戦略的に意図を持ってやっているということで、そこの違いだと思うのです」

28 「産経新聞」2023年10月1日朝刊

——ニュースキャスターの安藤優子さんが著書²⁹で、自民党の女性議員はなぜ少ないのかという問題提起をして自民党の政治志向を「イエ中心主義」と呼び、女性は家庭を守る「家庭長」であり、「イエ」に属する妻、母であるとの認識が「女性個人」の認識に優先されることに他ならない、と指摘しています

「自民党議員の時に研究会を作って、「女性が暮らしやすい国はみんなにとっていい国だ」って、めちゃくちゃ長いタイトルをあえてつけて、だけど略称は1192委員会っていい国。最近、鎌倉幕府は1192じゃないみたいですね。これは何を意味するかというと、女性の観点から働き方、育児、つまり自民党の部会っていうのは厚労部会とか、文部部会とか、全部役所事の縦割りになっているのです。女性の観点からすればどの役所がやっつていようが関係ない。みんな勉強会に来ると厚労省から、経産省から並んで、メモって、それで終わっていたのですね。結局、何にも進まない。なので、都知事になってこれまでできなかったことをガンガンやっつていくと、都議会では1番になるし、区長や市長も女性の方もどんどん出てきているということで、いい例になっているか分からないけれど、しかしながら世の中を変える力は女性の活躍にあると思っています」

——世の中を変えるため女性の活躍が当たり前のように実現していくための具体的な目標はあるのですか

「今言っているのが今後10年間で女性国会議員の割合を30%にして、2030年に上場企業の女性役員比率を30%にすることを目指しています。

29 安藤優子（2022年）「自民党の女性認識 イエ中心主義の政治指向」明石書店

諸外国と10年違うのです。ヨーロッパではEU各国などは上場企業の女性役員の比率を40%にしないと上場を取り消すよとか、役員報酬はダメだよとか無茶苦茶やっているのですね。だから意思を持ってやるっていうことですよね。そうした点で、最近では、岸田改造内閣で5人の女性閣僚が誕生したけれど、副大臣、政務官で女性はゼロだったことに話題が集中していましたよね。でもそこで「誰も入っていませんよ」とか言う人がいないのです。それは、ありえない。だったらスカート履いていたらいいのかとか、男性議員がまた色々と言うような気がしますね」

意思を持つことの重要さ

——東京都では全国の自治体に先駆けて2000年に男女平等参画基本条例³⁰がありましたね。男女が対等な立場であらゆる活動を共に参画し、責任を分かち合うという趣旨でした。

「この間、それも条例改正しました。私が言ったのは一つの性が4割を占めないとはそれは会議とはみなさないと言ったら、みんな「ヒャー」ってびっくりして。でも、審議会の女性比率はだいたい40%になりました。任期があるので、急に変えられないので、ここでもじわーと変わってきてますね。意思を持っているから、そこはちゃんとできるのです」

——労働の在り方や個々のライフスタイルが変わった現在で、女性のキャ

30 2000年3月に制定。男女平等参画の促進に関する基本理念や、都、都民、事業者の責務を定めた。2022年6月に条例において個別の審議会等の委員構成を男女いずれの性も40%以上とするクォータ制を導入。その結果、都の審議会等における女性委員任用率は2022年末までに40%以上とする目標を前倒しで達成した。

リアの形成と仕事の両立について意識改革、制度改革、自己改革の観点からみてどうお考えですか

「これもね、やっぱりアンコンシャス・バイアス、思い込みで、例えば、今度親が転勤になったので単身赴任になるのだと、という子供の会話を聞くと、単身赴任するのはお父さんだと思うの、普通は。だけど、実はお母さんのほうだったりする。それから、家事の役割とかも、日本では分担は本当に女性に傾いていて、育児もしっかり介護もしっかりということですよ。なんですけど、それはやはり意識を変えていかなくちゃいけないと思います。私はいつも心技体と言っているんですけど、意識＝心ですよ。技術とはちょっと違いますけど、体は制度ですよ。やっぱり、今も配偶者の扶養から外れて保険料負担が発生する「103万円の壁」という話がありますよね。それって田中角栄³¹時代の日本の中での制度じゃないですか。あのころの「家族」と何ら変わってないですよ。社会保障もですから、専業主婦で親子4人とかがベースになっていて、社会的役割も凝り固まっている。私は今サザエさん³²からスパイファミリー³³というように大き

31 産経新聞などによると、昭和22年、第23回総選挙で衆議院議員に初当選。幹事長、郵政大臣、大蔵大臣などを歴任する。昭和47年自民党総裁、戦後第6代内閣総理大臣となる。日中共同声明に調印し、中国と国交回復を成し遂げる。新幹線や高速道路で都市と地方をつなぎ、格差の是正を掲げた「日本列島改造論」を提唱した。総理辞職後の1976年2月に航空機売り込みの際に贈収賄があったとされるロッキード事件が発覚、同年7月に逮捕された。

32 スポニチアネックスなどによると、1969年からフジテレビ系列で放送されているテレビアニメ。世界で最も長く放映されているテレビアニメ番組として2019年11月17日にギネス世界記録に認定された。<http://www.sazaesan.jp/>

33 「SPY × FAMILY」（スパイファミリー）とは集英社が配信するWebマンガアプリ「少年ジャンプ+」で2019年に始まった連載。スパイの父、超能力者の娘、殺し屋の母の3人が、とあることをきっかけに「仮初めの家族」となって過ごす日常を描いたスパイアクションホームコメディ。連載開始以来、閲覧数やコメント数などが次々に最高記録となり、「少年ジャンプ+」の大ヒット作となった。<https://dmarket.docomo.ne.jp/trend/en-spo/102062/index.html>

く社会が変わっていて、その中で制度が変わっていないのがみんなを窮屈にさせているのだと思います。日本にたくさんある宝物である男性も女性も人間の力を十分に活かし切れていないということだと思います。ですから、今やるべきはマイナーチェンジじゃないのかなと思うので、東京都とすることができることを率先してやっ払いこうということです」

——ありがとうございました

女性の背中を押すのは誰か～自治の現場から

高際みゆき・豊島区長インタビュー

【日時】2023年12月6日

【場所】豊島区長執務室

【高際みゆき氏プロフィール】

1965年7月6日生。1988年3月東京女子大学文理学部社会学科卒。1995年4月民間勤務を経て東京都入庁。2006年7月日本司法支援センター（法テラス）犯罪被害者支援課長。2009年4月福祉保健局総務部副参事（区市町村連絡調整担当）。2011年4月福祉保健局少子社会対策部計画課長。2014年4月生活文化局私学部私学振興課長。2015年4月生活文化局総務部総務課長。2017年4月公立大学法人首都大学東京総務部長。2018年4月政策企画局小池百合子都知事の秘書事務担当部長。2020年4月豊島区副区長（コロナ対策・福祉・健康・子育て支援・若年者支援・文化・環境・産業振興を担当）。2023年4月豊島区長就任。



女性区長の増加で特別区長会の「景色」が変わった

——高際氏は24年間区政運営を行った前区長である高野之夫氏³⁴の元で3年間、副区長を務めた後に区長選に出馬し、当選されました。区初の女性区長となりますが、区政運営における手応えはいかがですか
(聞き手 ジャーナリズム・政策研究所 石元悠生)

「3年間、副区長をしていたことと、選挙を通じてやっぱり区民の声、子どもたち、女性の声を聞きたと思って選挙活動を行っていました。それを区長になってまず何としてもやろうということで進められたということがありますね。例えば、子どもレターの実現³⁵とか、区民から事業提案³⁶して貰うとか、後は「チーム豊島」といって民間企業やNPOに務めたりしている若い人たちから社会貢献の活動を提案してもらおうとか。まさに区民の声を直接取るぞ、それを政策に結び付けていくぞということを豊島区の一番の基本に置いたので、これに基づいて政策を進めていますので手応えは大変あります」

——統一地方選挙では、23区では高際氏のほか、北区のやまだ氏、江東

34 読売新聞オンラインによると、高野之夫氏は豊島区議2期、都議3期を経て1999年に豊島区長に初当選。6期目の途中だった2023年2月に体調不良のため85歳で死去した。

35 区政に対する子どもの意見を聞こうと、子どもが直接、区長に手紙を送れる取り組み。宛名は「みゆき豊島区長へ」。
区政に対する子どもの意見を聞こうと、子どもが直接、区長に手紙を送れる取り組みで宛名は「みゆき豊島区長へ」。
<https://www.city.toshima.lg.jp/016/kosodate/2306150920.html>

36 予算編成過程に区民の声を直接反映させることで、従来の発想にとらわれない新たな視点から区政課題の解決を図ることを目的とした区民による事業提案制度。<https://www.city.toshima.lg.jp/003/2307250928.html>

区の木村氏（11月15日辞職）も当選しました。特別区では、すでに品川の森沢氏、杉並の岸本氏、足立の近藤氏が現役の首長であり、23人の区長のうち一気に女性区長が5人の勢力になりました。

「とっても良いと思いますし、人口が男女半分ですので、23区の区長会³⁷も半分女性で当たり前じゃないかと思っているので、まだ5人かという感じがしております。と言うのと同時に、1人や2人でなく、5人以上いるのはやっぱり雰囲気が変わるし、一大勢力というか、全体の雰囲気を変える力があるなと思ったので、これが10人になり、11人になるとまた全然変わってくると思いますので、その一歩としては非常にいい状況じゃないかと思います」

——区長会はこれまで男性区長が主導権を握ってきたと思いますが、実際に議論の内容などで変わってきたことはありますか。

「例えば、この間も児童相談行政の話がありました。東京都としては財政協議に絡めて持ってきた時のやりとりですが、財政協議は協議として、その中身について子どもの声をしっかり聞こうというスタイルで児童相談行政というものを東京都と徹底して議論するのは良いことだと思うと私が発言しました。財政協議で東京都に勝つ負けるではなく、それぞれの区政を充実をさせるためにいかに東京都と連携していくか、何を言っていくかという観点が強いと思うので、そういった男性区長にはあまり見られない発言を女性区長たちは次々にしていましたね」

37 特別区間の連携を図り、特別区政の円滑な運営と特別区の自治の進展に資するため、昭和22年5月に設立された特別区23区長が組織する任意団体。
<https://www.tokyo23city-kuchokai.jp/gaiyo/gaiyo.html>

全国発、生理用品の無料配布～若い女性と 区がつながる「すずらんプロジェクト」

——区長選挙の時に話を戻させていただきますが、女性の区長候補として選挙戦を戦ってみて感じたことは何ですか

「まず、選挙は初めての経験でしたので大変難しかったです。女性候補という点では、凄く良かったと思います。というのも、私の前が高野区長という長く務められたベテランの男性区長だったので、女性に違う視点でどんどん区政を変えていってほしいという思いを街の人々からよく受けました。高野前区長からのギャップからの注目も集めることができました。なので、有権者のみなさんの印象に残ったのではないかな、と思っています」

——高際区長の選挙公約³⁸を拝見させていただきました。やはり、子どもと女性に関するものが多いように感じますが、そのへんは意識をして公約を作成したのですか

「やはり意識しましたね。今まで「女性」、「若者」、「子ども」が、区政に直接つながっていないと思っていました。地域社会の中核を担う各種団体

38 高際は「豊かな未来につながる」「子どもや若者、女性の声につながる」「すべての人・企業につながるオールとしま」をキャッチフレーズに①出産、給食費無償化、優しさや温もりあふれる子育てのまち②笑顔で元気な“としまっ子”が育つまち③家族や地域で支えるシニアライフが輝くまち④商店街を元気に！起業・創業を応援するまち⑤“アートカルチャー”が日常的にあふれるまち⑥心身の健康を増進する“ウォーカーブル”なまち⑦地球にも、人にも、未来にも優しいゼロカーボンなまち⑧有事に備え誰もが安全・安心に暮らせるまち—など重点的に進める8つのまちづくりを掲げる。

<https://takagiwamiyuki.jp/#policy>

の会長の方々だけでなく、若い人はもっと言いたいことがあるのではないかと思います。なので、おのずと女性とか子どもとか、若い人とか、あるいは障害者やひとり親とか、社会的には弱いと言われているような人々にどういう支援ができるのかを考え、そういう人たちの声をしっかり受け止めて何をしてほしいのかということを想像して公約を作ってきたと思います」

——副区長時代には自ら発案された「すずらんプロジェクト」³⁹という若い女性に特化した政策を実行したと伺いました

「コロナ禍で一番孤立してしまって誰ともつながっていない、生きづらい、自殺が多い、困ってしまってどうしていいかわからない、という若い女性の存在に気づいたのですね。それまでは、教育という意味では子どもたちの支援もしているし、子育てパパママの支援もしているのですが、子どもでもない、ママでもない間の女の子たちと区役所が全く繋がっていないということに気がついて、その子たちがコロナ禍で本当に生きづらい、家にもいられない、学校にも職場にもいきたくないみたいな、そういう子たちとに繋がって支援を始められるか、ということからトライしたのですが、こっちも見えてないし、若い女の子たちが区役所に何かヘルプということなんて全く思わない。役所の存在なんて、たぶん彼女たちの頭にはない。だけど、彼女たちを救える支援を私たちは持っていて、彼女たちに伝わるような言葉でメッセージを出していないことをどういうふうに繋

39 2021年に生きづらさを感じる10代から20代の若い女性を支援するため、豊島区役所横断組織で生まれたプロジェクト。子育て関係、人事、総務、広報、男女平等推進センター、自立支援、教育など複数の課が部を超えて連携して支援体制を構築している。<https://www.city.toshima.lg.jp/000/kuse/suzuran/project.html>

がってもらえるかという観点で始めました」

——若い女性たちとお堅い区役所が繋がるというのはなかなか想像し難いものと思いますが、具体的にされたことは何だったのでしょうか

「そうですね、全国で初めて生理用品を役所が無料で配布したっていうのは、女の子たちからも「凄く有難い」と言われました。その時は生理用品を買えない女の子がいるなんて思わなかったんですけど、生理用品は高いから買えないので、体育の授業を受けられないとか、友達とも会えないで家にいるなんて思ってたんです。なので、そうしたところへのトライは女の子から手応えもありました。あともう一つ、いろいろ頑張っても女の子たちが区役所と直接つながるのはとても難しいことです。なので、女の子たちを支援している団体と役所がつながることで、女の子たちとつながっていこうと思っていましたのでネットワークの会議を作りました。やはり区が音頭をとって民間支援団体を一気につなげてネットワークを作ったことはとても評価されて手応えもありました。役所内のチームメンバーもどんどん増えていって、私がトップで下は新人の女性職員まで総合的にやって今3年目になりました。男性の応援団も増えています」

区長だけ有名は意味がない 区民の声聞き職員が有名に

——「すずらんプロジェクト」は、まさに女性区長ならではの代表的な施策の一つですね。そうした施策を通じて豊島区が変わったなど高際氏が感じる瞬間やエピソードを教えてください。

「職員が区民の声を聞こうということと、自分たちが街に出て行って有名

になりましよう」と発破をかけています。区长だけが有名になっても全く意味がないので。部長も課長も職員もできるだけ街に出て、街の人々が何を思っているのか直接聞くことで、この分野の〇〇さんねと言って貰えるようにやっていることでしょうか。私をはじめ職員がいろんところで「聞く、聞く」と言っているので、街の人たちも「区役所は話を聞いてくれるのだ」という思いは持ってくれていると思っています。それはいろんところで言われますね」

——まず「聞く」という姿勢が高際区政の基本的なスタンスなんですね

「そうです。後、子どもレターでもそうですが、みんなにサインして返事を書いています。今 350 通くらい来ているのです。それも職員に話しているのは、小さなことでもすぐできることはすぐやろうと。例えば、門が壊れて怖いと言ったら、すぐに直そうと。一方で、学校をもっと大きくして下さいみたいな、なかなかできないことは、大人がよく言う「検討します」ということじゃなくて、今それについて私たちが何を考えていて、ここが難しいのだけと、ここを一生懸命に考えているんだよと。なので、ちょっと時間はかかるけど一生懸命に考えるねと。そういうところまでしっかりと返事を書こうというふうにやっています。そうすると、お祭りなんかで、「区长さん、学校の黒板が古くて消してもうまく消えないので綺麗にしてください」というのを貰ったから、すぐに取り替えて綺麗になったら、子どもが寄ってきて「区长さん、お手紙書いたら黒板綺麗になりました。ありがとうございます」と子どもから直に言われたりして。子どもたちも役所に対して物を言っても良いのかな。成長していくと今後は社会参画となってくるから、それも手応えかなと思います」

——お話を伺っていますと、やはりお母さんの視点で行政を見ることのできることは大きな特徴なのでしょうか

「あると思いますね。職員に対してもいつも「チーム豊島区」って言っていますが、1人じゃないんだからと。だから区長室にも部課長だけでなく職員も一緒に来て貰って、職員にも意見を求めたり、どういうふうを考えているのと若い子たちには聞こうと思っています。それで、若い職員も区長に意見を言って、「いいよね、それやろうよ」となれば、組織の底上げにもつながっていきます。なので、お母さんの視点はあるかなと思います（笑）」

——東京全体を見回しますと、首長だけでなく、区議会や市議会にも女性議員が増えてきました。中には議員の半数以上が女性議員という議会もあります。

「若い議員や女性議員の多くは、議会での質問が街のしがらみではなくて、やっぱりこうゆう観点で若者を支援してほしいとか、子どものこういうワクチンをちゃんとやってほしいとか、凄くリアルな生活に密着した質問が多いので変わってきたと思います」

——豊島区議会⁴⁰は現在、男性議員が20人、女性議員は16人です。女性議員が改選前に比べて増えましたが、高際氏から見える景色は変わりましたか。

40 豊島区議会 <https://www.city.toshima.lg.jp/kuse/gikai/index.html>

「そうですね、街づくりとか産業振興とかだけでなく、ひとり親や障害を持っているお子さんを育てているご家庭、高齢者介護を一人で担っている家庭とか、全員が社会的弱者とは言えませんが、そうしたところにも気が付いてくれてしっかりと質問してくれるというのはとてもありがたいと感じています。議会での質問内容も従来と比べて変わってきていると思います。街づくりの話をするにしても、道路の段差を含めて歩きやすさとか、暗いところは明るくして子どもたちが安全に学校に行けるようにとか、ハード施策のことでもやっぱり優しい区民目線で聞いてくれると思いますね」

政界分野への女性進出、クォータ制導入は「力技」で

——その一方で、全国ではまだ200以上の議会で女性議員はゼロとなっています。女性の政界進出が伸びやむ理由は何だとお考えですか

「やっぱり女性候補を政党が推薦していないからではないかと思います。一方で、どんな街でも民生委員や子ども食堂とか、児童育成委員で頑張る人がたくさんいますが、そうした人々に対して「今度、選挙でませんか」と政党は声をかけていないのではと思うのです。地域で頑張っている女性たちは、政党が推薦をしない限り、なかなか選挙に出ないと私は思います。というのは、女性は日々の生活で一生懸命で、自分の生活だけでなく、地域の子どものやお年寄りのためとか、社会貢献活動をしているのですが、そこに一生懸命なので、人から薦められないと選挙には出ないと私は思っています。中には意欲的に出たいと思われる人がいるかもしれませんが、地域で頑張っている女性の背中を押す側がないと選挙に出る女性は増えないと思います」

——諸外国ではクオータ制度を導入する国が増えてきています⁴¹。日本では議論はするが、反対意見も根強くなかなか具体的な動きには結びついていません。こうした制度面からの改革議論についてはどう思われますか

「私はやったほうが良いと思います。最初から男女半々にするか、女性議員の比率を3割や4割にするとかはありますが、やはりここまで日本で女性議員が少ないと、ある程度の「力技」で改革していかないと、すでにいるベテラン男性議員が「あなた選挙でない」と街で頑張っている女性に声をかけないと思います。日頃からベテランの人たちは若い人と女性と意見交換したり、街で頑張っている人に「頑張っているね」と声をかけても、本当にその人たちがどういう思いでやっているのかということを知らないと推薦できないし、たぶん、そういうふうにくオータ制をやると、「対象の人がいないから上げられない」という人が必ずいると思います。街の人のことを本当に知っているのですか、と私は思うわけです。なので、クオータ制を導入するのであれば、ある程度の強制力を持ってやったほうが良いと思います」

——今回のインタビューは、政治分野における男女共同参画に必要なものは何か、というテーマでお話を伺ってきました。高際氏が区長として必要だと考え、それを掛け声としてやっていこうとすることは何か教えてください。

41 ジェンダークオータ・データベース (Gender Quotas Database) を分析した内閣府男女共同参画局の参考資料「地域別・諸外国の国会議員に占める女性の割合とクオータ制の取組」によると、2021年現在で129カ国・地域で何らかのクオータが実施されている。

「区長会の在り方など政治分野における男女の共同参画の実現を考えつつ、まずはお膝下である区役所の女性管理職をしっかり増やしたいと私は考えています。今も課長職などに女性は結構いますが、今まで代々男性職員しかついていたことがないポストもあるわけです。例えば、財政課長や企画とかです。部長だって女性は2人しかいないわけです。なので、いきなり財政課長はできないので、若いうちからジョブローテーションの中で色々訓練しながら管理職になって、そして部長になっていくというふうにしっかり育てていきたいなと思います。庁内でも半分部長が女性ならやることは全く変わってくると思います。そうすることで、あらゆる分野で見えてくる景色も随分変わってきますしね」(談)

——ありがとうございました

参考文献

- 安藤優子 (2022) 「自民党の女性認識 イエ中心主義の政治指向」明石書店
- 石元悠生 (2022) 「東京五輪招致の研究」成文堂
- 大山礼子 (2018) 「政治を再建する、いくつかの方法 政治制度から考える」
日本経済新聞出版社
- 小池百合子編 (2013) 「女性が生きる成長戦略のヒント vol-1 20/30 プロ
ジェクト」プレジデント社
- 辻村みよ子・三浦まり・糖塚康江編 (2020) 「女性の参画が政治を変える一
候補者均等法の活かし方」信山社
- 辻村みよ子、斎藤笑美子 (2023) 「ジェンダー平等を実現する法と政治
フランスのパリテ法から学ぶ日本の課題」花伝社
- 三浦まり (2023) 「さらば男性政治」岩波新書

三浦まり、衛藤幹子編（2014）「ジェンダー・クォータ 世界の女性議員はなぜ増えたのか」明石書店

「女性議員は地方議会を変えるのか？」『女性展望』2018.3-4,pp6-10

「女性議員を増やすために有効な方法とは？」『女性展望』2017.7-8,pp18-20

「女性議員を増やす提言・活動に取り組んで」『女性展望』2016.3-4,pp12-18

「地方議会に女性議員を送るために」『都市問題』2017年5月号,pp31-38

国連女性機関（UN Women）調査（2023）「各国における女性閣僚の数」

<https://www.unwomen.org/en>

世界経済フォーラム（2023）「グローバル・ジェンダー・ギャップ報告書」

総務省（2023）第20回統一地方選挙発表資料

東京都調査（2022）「駐日女性大使一覧」

https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2022/10/14/documents/06_02.pdf

内閣府男女共同参画局（2023）「統一地方選挙における候補者、当選者に占める女性の割合の推移」

https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r05/zentai/html/zuhyo/zuhyo01-03.html

内閣府男女共同参画局調査（2023）「日本の上場企業における女性役員推移」

<https://www.gender.go.jp/policy/mieruka/company/pdf/suii.pdf>

内閣府男女共同参画局の調査（2023）「都道府県別全国女性参画マップ」

https://www.gender.go.jp/policy/seijibunya/mieruka_map_2.html

内閣府男女共同参画局の調査（2022）「都道府県本庁課長相当職 女性割合ランキング」https://www.gender.go.jp/policy/suishin_law/ranking_ken.html#second

内閣府男女共同参画局の参考資料（2021）「地域別・諸外国の国会議員に占める女性の割合とクオータ制の取組」
https://www.gender.go.jp/research/kenkyu/pdf/gaikou_research/2020/15.pdf

産経新聞 2023年10月1日朝刊

日経新聞 2023年11月9日朝刊

日経新聞 2023年11月23日朝刊

日経新聞 2023年12月9日朝刊

スポニチアネックス 2019年11月18日

読売新聞オンライン 2023年2月9日

高際みゆき「初の女性区長と豊島を高める会」ホームページ

<https://takagiwamiyuki.jp/#policy>

杉並区議会ホームページ

<https://www.city.suginami.tokyo.jp/kugikai/giin/1000235.html>

東京都議会ホームページ <https://www.gikai.metro.tokyo.lg.jp/>

東京都保健医療局

<https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/kiban/byouin/byouin.html>

東京都生活文化スポーツ局ホームページ

<https://www.seikatubunka.metro.tokyo.lg.jp/danjo/danjobyodo/0000001688.html>

特別区長会ホームページ <https://www.tokyo23city-kuchokai.jp/gaiyo/gaiyo.htm>

豊島区役所公式ホームページ <https://www.city.toshima.lg.jp/>

豊島区議会ホームページ <https://www.city.toshima.lg.jp/kuse/gikai/index.html>

武蔵野市議会ホームページ <https://www.city.musashino.lg.jp/shigikai/index.html>

サザエさん 公式ホームページ <http://www.sazaesan.jp/>

TV アニメ『SPY × FAMILY』ホームページ <https://spy-family.net/>